

女也ニ漁振だより

2023
8月

No.159

◇ 紙 面 案 内 ◇

- ◇ 令和5年度通常総会・理事会報告 (2)～(4)
- ◇ 漁場環境調査結果について (5)
- ◇ 関伊川水門工事の進捗について (6)
- ◇ 地引き網漁業体験について (7)
- ◇ 第十八日出島丸竣工 (8)

表紙：新造船第十八日出島丸



(第74年度)

催開会

令和5年度通常総会6月28日(水)宮古漁協ビル4階大会議室において開催され、令和4年度事業報告並びに令和5年度事業計画等の議案が審議され、原案の通り承認・可決されました。

総会には、新型コロナウイルスの感染拡大防止の一環として、昨年度と同様に書面による議決権行使の方法を案内し、正組合員399名(本人出席20名、書面決議379名)が出席いたしました。

◆組合長挨拶

本日の「令和5年度通常総会」は、新型コロナウイルス感染症が5類となったものの、いまだに収束していない状況を踏まえ、事前の議決権行使を推奨し開催したところであります。

組合員の皆様には、ご理解とご協力をいただき、心から厚く御礼申し上げる次第であります。

我々も、昨今の厳しい環境下にある中、組合員のご理解

とご協力を賜りながら、役員一同、更なる健全経営を目指し、鋭意取り組んで参る所存であります。

本日は、どうぞ宜しくお願ひ致します。

●承認・決定された各議案●

- 令和4年度(第74年度)貸借対照表・損益計算書・剰余金処分案・注記表及び事業報告について
- 令和5年度(第75年度)事業計画の設定について
- 第一種区画漁業権の取得に



ついて

○第一種共同漁業権の取得について

○第二種共同漁業権の取得について

○第五種共同漁業権の取得について

○第一種区画漁業権行使規則の制定について

○第一種共同漁業権行使規則の制定について

○第二種共同漁業権行使規則の制定について

○第五種共同漁業権行使規則の制定について

○第一種共同漁業権行使契約の制定について

○第一種共同漁業権連合管理委員会設置規程の設定について

○漁業権行使規程の設定について

○漁業権の行使料について

○漁業の経営について

○漁業生産力の発展に関する計画の達成状況報告及び設定について

○令和4年度総会(総代会)で議決した事項の処理状況について

●報告された事業の概況●

○共済事業

「浜の安心を未来へ」ひろげよう共済の輪〜JF共済3か年計画」の最終年度を実施した結果、事業総利益(粗利益)は722万円となりました。

○購買事業

定置漁獲量減少やトラウト用船舶変更等によりA重油の使用数量が計画を下回ったが、漁網網類、一般機器類、ゴム製品類、包装資材、その他漁業資材が計画を上回る結果となり、事業総利益(粗利益)は467万円となりました。

○販売事業

天然生産物のウニは、順調な口開け回数や魚市場個人出荷再開により、数量、金額ともに前年を上回り、アワビについては、口開け回数が3回に留まったものの、単価高に

令和5年度

通常総



より金額で前年を上回り、ナマコについては前年並みの水揚げとなった。また、養殖生産物の力キは、成育不良等により歩留りの低下があったが、他県の大規模な出荷数量減少により高値で推移し、ホタテについても、数量、金額はともに堅調に推移し、事業総利益（粗利益）は1,345万円となりました。

◎製氷冷蔵事業

製氷工場と自動製氷販売機により供水体制を整え、各種漁船漁業及び出荷業者の高鮮度な水産物の水揚げ・販売に寄与した。また、組合員への安定した餌料供給及び保管に努めるとともに、衛生管理を徹底した冷凍販売品の生産とワカメ等の受託加工を行った。事業取扱数量について、製氷部門ではサンマ等の不漁

の影響が大きく計画数量を下回ったが、出荷業者等への販売数量が伸び、前年度を上回る結果となった。冷凍販売品部門では前浜に水揚げされる魚種を取扱い、サンマ・秋サケの不漁のなか、計画・前年度ともに上回る数量となった。受託加工部門は、ワカメが減産となるなか、助宗タラなどを取扱い、計画を上回る実績となったが、事業総利益（粗利益）は▲4,645万円となりました。

◎漁業自営事業

主要魚種である秋サケは、近年春先の海水温が高くなる傾向が続いている影響から、北海道及び日本海側で漁獲量の増加と回帰率に大きな影響を与えている要因が見られ、漁獲尾数は前年とほぼ同数となり、尾数は11千尾、数量は29トン

と魚体が小さく数量は昨年度を下回った。その他の魚種ではサバの漁獲増加や単価高にも恵まれ、総水揚げ高は計画を上回る結果となり、事業総利益（粗利益）は46,836万円となりました。

◎市場事業

地方卸売市場の役割として、受入態勢の強化並びに公正な販売取引を念頭に置き、廻来船誘致活動及び品質衛生管理の充実を図り、水揚げ増大を目標に日々努めた結果、依然として秋サケが不漁であったが、スルメイカの水揚げ数量・金額ともに増加したため、数量・金額ともにほぼ計画並の実績となり、事業総利益（粗利益）は計画を上回る16,751万円となりました。

◎造船事業

安全を第一に生産向上に努めた結果、上架隻数並びに修理料の増加により受入利用料は計画を上回る6,595万円となりました。

◎指導事業

「地域再生営漁計画」、「浜の活力再生プラン」、「漁業生産力の発展に関する計画」を基軸として取組みながら、「未来につなぐ美しい海計画」に基づく漁場環境調査等を継続して行った。

広報誌「漁協だより」の掲

載内容の充実に努め、下部組織である女性部・青壮年部に対し活動助成金を交付し、支援を図るとともに、関係取締機関と密接な連携を図り、漁業秩序の維持及び漁業権行使規則等の遵守・励行の周知、遭難対策、密漁防止対策を徹底しながら、磯根資源の増繁殖を図るため、アワビ種苗305千個、ナマコ種苗20千個、内湾浅海域においてはアサリ2.8トン、ホツキ貝1トンをそれぞれ放流し、魚類については、ヒラメ稚魚56.2千尾、アユ稚魚150kgを放流し、うぐいの産卵場造成にも努めた。また、所得税・消費税確定申告指導を実施するとともに、資材価格高騰の影響を受けている組合員に対し、水産業資材価格高騰緊急対策事業による支援措置を行った。

高浜水産研究センターにおいては、ワカメ・コンブ・ホヤの種苗生産を実施し安定供給に努めるなど、本年度は、岩手県からの委託を受け、アサリ種苗量産技術開発業務を実施した。加えて、令和元年9月より実証試験として実施してきた宮古市からの委託事業である陸上魚類養殖ホシガレイについては、本年度を以て終了致しました。

◎さけ・ますふ化放流事業

今年度の秋サケの回帰は、昨年度を上回ったものの、以前低い水準となつている。津軽石・松山両ふ化場の稚魚生産尾数については、北海道卵等の移入により、計画を上回る結果となりました。

◎無線事業

所属漁船への定時気象通報・救命胴衣着用の周知と併せ、各警報・注意報発令時やウニ・アワビ等の開口時にはいち早い情報発信に努め、北朝鮮ミサイル発射時には漁業安全情報伝達迅速化システムにより緊急速報を発信致しました。

◎魚類養殖事業

第3期目として、令和4年4月より7月中旬まで出荷し、数量は計画を下回りましたが、水揚金額は単価高に支えられ、計画を上回る112百万円の実績となりました。

◎利用事業

組合員の漁業生産活動を助長するため、各共同利用施設の適正な管理と運営に努めました。

◎その他の事業

森林と海洋資源との密接な関係性を踏まえて、森林管理巡視による資産の維持と管理に努めました。

令和5年度基本方針・重点事項

我が国の経済は、コロナ禍からの回復や各種政策の効果を通じ、景気が持ち直していくことが期待されるものの、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスク、物価上昇や供給面での制約、金融資本市場の変動の影響に十分注意し先行きを注視する必要があります。

一方、水産業を取り巻く環境は、総じて厳しい状況下が続いており、組合員の期待と信頼に応える漁協組織体として、従前にも増してより健全な漁業経営機能の確立と組織基盤の強化・充実を目指し、「岩手県漁協組織強化計画」を基軸に、JFグループ岩手の新運動方針等の着実な推進と実現に取組み、水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化を両立させた活力ある漁業を構築するため、浜の構造改革や漁業者（組合員）の所得向上に向けた改革を促進し、協同組織体として不測の事態にも耐えうる強靱な体制構築が必須であります。

- 1. 組合員の信頼に応えうる更なる組織強化を目指し、「JFグループ新運動方針」に対応した「岩手県版アクシヨンプラン」の実践に取り組んで参ります。
- 2. 改正漁業法に基づく「漁業生産力の発展に関する計画」、「地域再生営漁計画」及び「浜の活力再生（広域プラン）」を基軸に、地域の实情に即した諸課題解決に向け、引き続きその実行に取り組んで参ります。
- 3. 組織基盤の強化・充実を目指し「長期事業計画（経営改善計画）」の着実な推進と実現に取り組んで参ります。
- 4. 環境保全対策の継続実施と海洋環境の注視に努め、資源管理型漁業の効果的実践による漁業生産力の向上、及び適切な漁場管理に努めて参ります。
- 5. 衛生管理の徹底による各種水産物の「安全・安心・高品質化」に取り組んで参ります。
- 6. 組合員の経営安定に貢献しうる各般事業の効率的かつ積極的展開、及びトータ

ルコスト削減と可能な限りの自助努力を傾注し、組合経営の健全性確保と組織基盤の強化・安定を目指します。

その他
(一)魚市場水揚報告について
(二)登録買受人届出事項変更について
(三)令和4年度組合脱退者の報告について
(四)令和4年度下半期開催の理事会決定事項の処理状況について

理事会報告

第一回理事会

(5月1日)

- (一)令和5年度コンプライアンス・プログラムについて
- (二)資産自己査定報告について
- (三)固定化債権の回収状況及び処理方針について
- (四)漁業生産力の発展に関する計画の達成状況について
- (五)漁業権一斉切替に伴う区画漁業権及び共同漁業権取得並びに漁業権行使規則制定等について
- (六)漁業の経営について
- (七)第一種共同漁業権行使規則の一部変更について
- (八)令和4年度業務報告について
- (九)令和5年度事業計画の設定について

第二回理事会

(5月22日)

- (一)漁業生産力の発展に関する計画の設定について
- (二)アサリ種苗量産技術開発事業（県委託事業）について
- (三)令和4年度業務全般監査報告について
- (四)総代会・総会提出議案審議について
- (五)総代会・総会開催日時決定について
- (六)参事の任免について
- その他
(一)育英奨学生の採用について
(二)業務報告について
(三)トラウトの出荷状況等について
(四)令和5年度宮古市水産課関係事業について
(五)岩手県知事及び岩手県議会議員選挙に係る推薦依頼の取扱いについて

漁場環境調査結果について

若布・昆布養殖管理用の 栄養塩濃度について

- ・栄養塩NO₃-N(硝酸態窒素)単位：
μg/l という記号で表し、海水1l
中のNO₃-N含有量を表す。(1μg/
l=0.000001g/l)
- ・10μg/l以下になると芽落ちや色
落ちが起こる危険な状態となる。
- ・20μg/l以上を一応安全な目安と
しているが、20~30μg/lでも晴
天の日が続いたり、小潮時など海
水の交換が悪い時は、芽落ちや色
落ちが起きる事がある。

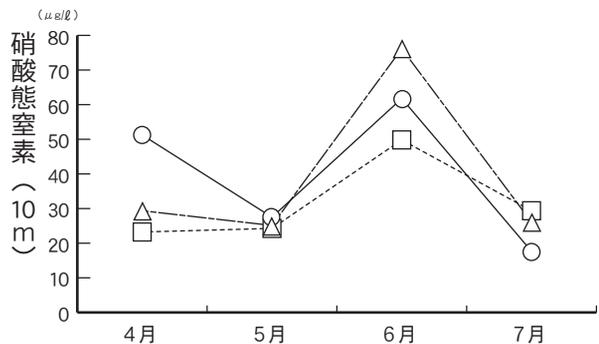
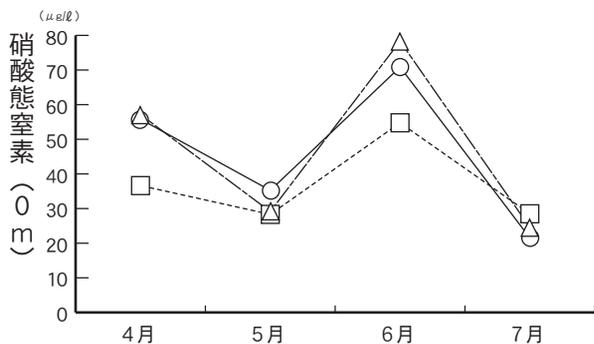
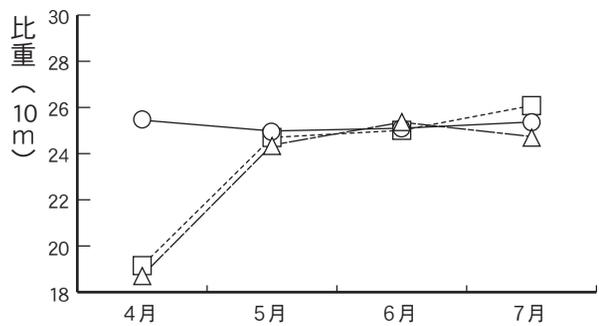
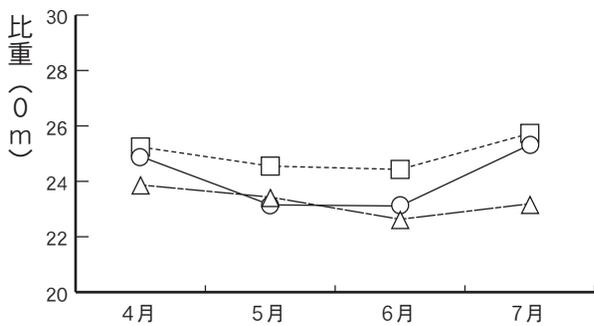
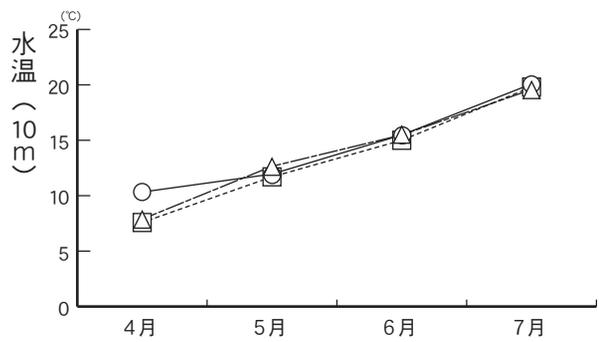
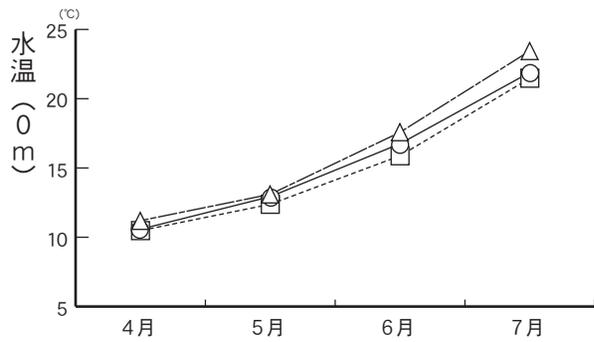
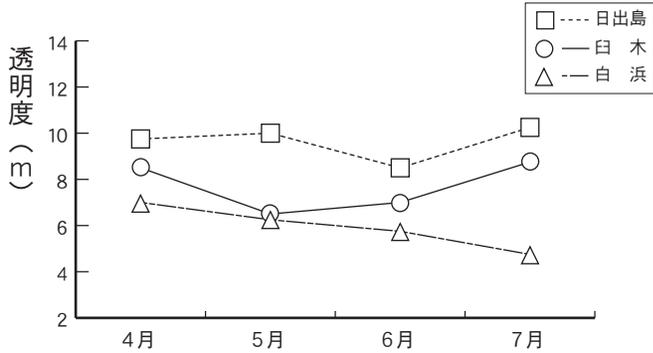
「未来につなぐ美しい海計
画」に基づく漁場環境調査に
ついて、日出島・白木・白
浜漁場の三定点における透明
度・水温・比重・栄養塩(硝
酸態窒素)の調査結果につい
て御報告致します。

今回の調査結果と昨年同期
を比較しますと、水温：4月
から7月まででは昨年より高
く推移しています。比重：10
m層では、日出島と白浜が4
月に低くなっていますが、ほ
ぼ例年通りで安定していま
す。栄養塩：昨年と比べて全
体的に低く推移しています。

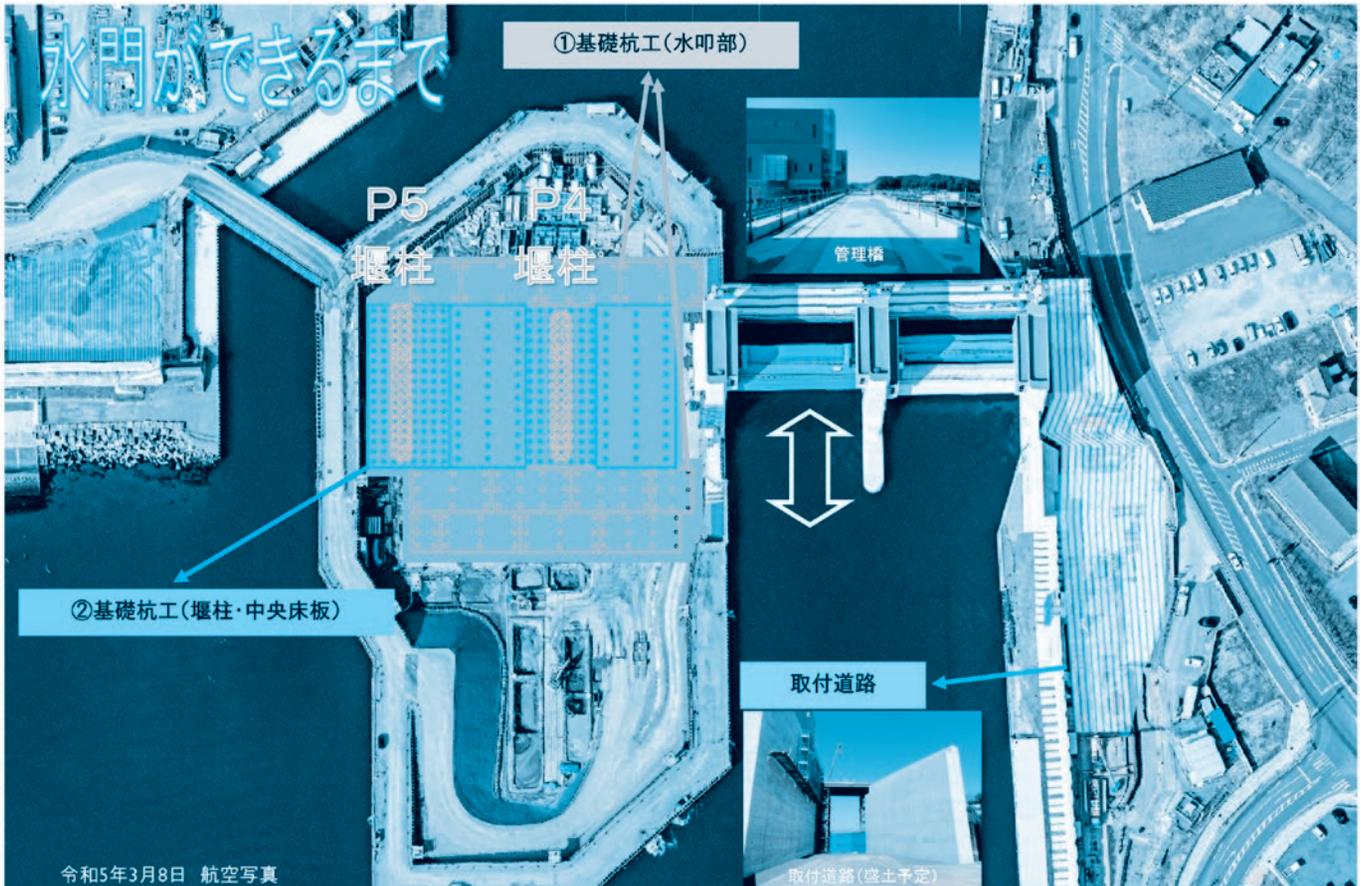
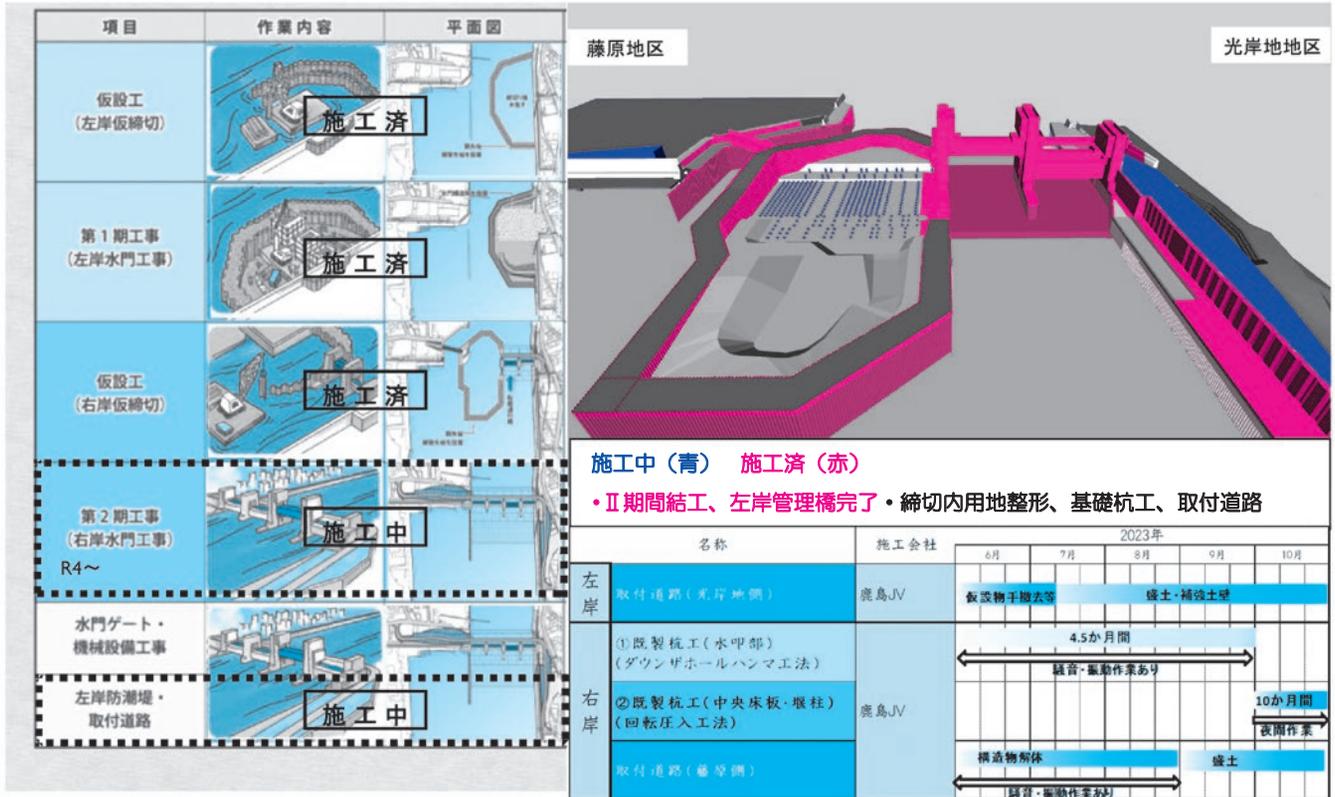
今後も漁協だより等、各支
店・支所にて結果がご覧にな
れますので、皆様には参考に
して頂きますようお願い致し
ます。

《栄養塩とは？》

栄養塩とは、海水中に溶けている
肥料分のことで、窒素、リン、珪素
が三大要素と呼ばれており、栄養塩
の中でも特に窒素系の栄養塩(硝酸態
窒素)は、タンパク質を形成する重要
な元素であることから、この変動が
若布、昆布の作柄に大きな影響を与
えている事が知られております。



《 閉伊川水門工事の進捗状況について 》



堰柱 (P4・P5) を立ち上げるための基礎杭工を実施します。

①基礎杭工 (鋼管杭:水叩部):鹿島JV
打込み工法:打撃工法(ダウンザホールハンマ工法)

騒音:あり 振動作業:あり 作業時間 8時00分~19時00分
作業期間 2023年6月~9月頃まで

②基礎杭工 (鋼管杭:堰柱・中央床板):鹿島JV
打込み工法:回転圧入工法

騒音:なし 振動作業:なし 作業時間 昼夜作業あり
作業期間 2023年10月~2024年9月頃まで

地びき網漁業
体験こいっせ

令和5年7月13日宮古市藤の川海水浴場において、当青壮年部が主体となり、宮古市立高浜小学校地びき網漁業体験を実施しました。

当日は天候に恵まれ、晴天の中、生徒40名で引き網開始。漁獲した魚を間近で観察することができ、生徒全員興味深々で、「食べたい。」など、様々な声が聞こえ、魚食普及に繋がる良い機会になりました。また、今回地元漁業者や関係機関の皆様のおかげで、地びき網漁業体験を無事に大成功で終えることができました。心より感謝いたします。今後も当青壮年部では、漁業体験等を実施し、地元地域の皆様と交流を深めていきたいと思えます。



信漁連窓口営業時間の変更について

宮古山田支店の窓口について、下記のとおり営業時間を変更とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

実施日 令和5年10月2日(月)より
窓口休業時間 12:30 ~ 13:30
窓口営業時間 9:00 ~ 12:30 及び 13:30 ~ 15:00



『職員人事異動のお知らせ』

1. 退職

氏名	職名	備考
鈴木 誠一	市場販売部市場販売課市場販売主任	定年退職（令和5年5月31日付）
山崎 淳子	市場総務部市場総務課市場総務係長	定年退職（令和5年6月30日付）

2. 採用

氏名	職名	備考
鈴木 誠一	市場販売部市場販売課市場販売主任（嘱託）	再雇用（令和5年6月1日付）
山崎 淳子	市場総務部市場総務課市場総務係長（嘱託）	再雇用（令和5年7月1日付）

3. 異動（令和5年6月1日付）

氏名	異動後	異動前
坂下 尚司	参事（市場担当）兼市場総務部長（嘱託）	市場販売部長（嘱託）
吉田 好栄	市場販売部長	市場販売部市場販売課長
大久保 清隆	市場販売部市場販売課長	市場販売部市場販売課市場販売課長代理
中村 裕作	市場販売部市場販売課市場販売係長	市場販売部市場販売課市場販売主任
在原 一謙	市場販売部市場販売課市場販売係長	市場販売部市場販売課市場販売主任
中家 一輝	市場販売部市場販売課市場販売主任	市場販売部市場販売課市場販売係
井戸端 勝治	市場総務部市場総務課市場総務係（嘱託）	参事（市場担当）兼市場総務部長（嘱託）
金丸 守	市場販売部市場販売課市場販売係	市場販売部市場販売課市場販売係長

4. 異動（令和5年7月1日付）

氏名	異動後	異動前
佐々木 彪吾	総務部津軽石ふ化場係	金融共済部金融共済課金融共済係（信漁連宮古山田支店係）

定置漁船 第十八日出島丸(19トン)竣工



宮城県の(有)大勝造船にて予てより建造を進めておりました定置漁船「第十八日出島丸」が竣工し、去る7月12日に宮古港に回航いたしました。

当日は、大井組合長以下役員、その他関係者多数が参加するなか、お披露目すると共に安全操業と大漁の願いを込めて進水祝いを行いました。

本船は総トン数19トン、馬力数736kWの高性能漁船であり、水揚げの始まった日出島漁場の主力船として活躍が期待されることとあります。



湊大杉神社例大祭

令和5年7月30日、湊大杉神社例大祭が執り行われました。新型コロナウイルス感染症により4年振りとなりましたが、御神輿が市内を練り歩き、猛暑にも負けず、地域の安全と繁栄を祈りました。



編集後記

暑さ厳しき折柄、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年度のウニ漁は終了しましたが浜はまだまだ活気が見られます。

先月といえば、宮古漁協の定置網漁船の新造船「第十八日出島丸」の入港セレモニーがありましたね。大漁旗を掲げ、演歌とともに入港する姿がとても印象に残っています。

さて、暦を見ればもう九月まで幾日もありません。いよいよサンマ漁・秋サケ漁のシーズンとなり、十一月からは、アワビ漁も始まります。安全操業に務めて頂き、大漁になる事を願っております。

次号(第百六十号)は令和六年一月発行の予定です。

みやこ漁協だより

令和5年8月発行 No. 159 (創刊 昭和60年6月)

発行 宮古市光岸地4番40号 宮古漁業協同組合 (宮古(62)1234代)

編集責任者 大井 誠 治